

2021 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 通山 久仁子	職名 講師	学位 博士 (コミュニティ福祉学)
-----------	-------	-------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
障害者福祉、地域福祉	障害者家族、発達障害、「親亡き後」、当事者組織

研 究 課 題
発達障害者家族を対象として、「親亡き後」の生活課題・生活支援ニーズを明らかにし、そのニーズに応じた支援体制を「障害当事者」および「親当事者」の「当事者」組織を主体として構築していくための具体的な方策について検討する。

担 当 授 業 科 目
ソーシャルワーク演習 (後期) 相談援助演習Ⅱ (前期) 相談援助演習Ⅲ (後期) 相談援助演習Ⅳ (前期) 相談援助演習Ⅴ (後期) 相談援助実習指導Ⅰ (通年) 相談援助実習指導Ⅱ (通年) 保健福祉学入門 (前期) 福祉入門 (前期) 福祉経営論 (前期) 就労支援サービス論 (前期) 障害者福祉論 (後期) 専門研究Ⅰ (通年) 専門研究Ⅱ (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 ソーシャルワーク演習Ⅰ 】 本演習は新カリキュラム移行後、本年度初めて開講された科目である。初年次の学生を対象としているものの、面接技法やソーシャルワーク・グループワークの展開過程などのソーシャルワークの技術等が詰め込まれた科目である。そのため、ソーシャルワークに関する基礎的な知識の説明を加えながら、わかりやすい事例を選定し、演習を展開できるようにした。また、できる限りグループワークを取り入れ、他者と意見を共有しながら、考察を深めていく機会を設けるようにした。そして学生のふり返りの時間を必ず設定し、さらにその個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【 相談援助演習Ⅱ 】 本演習は相談援助に関わる実践技術を学ぶ演習であるが、技術や技法だけでなく、その基盤にある福祉的理念を同時に伝えられるよう努めた。学生が相談援助の技術・技法を体得し、実習などの実践現場で活かせるよう、繰り返しロールプレイで練習する機会を設けた。ロールプレイの際には、面接場面をクラスで共有し、お互いにフィードバックし合いながら、学生が自身を客観的にふり返られるようにした。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【 相談援助演習Ⅲ 】 本演習は相談援助実習前の準備段階にある時期に開講される演習であるため、より実践場面を意識し、臨床現場で実際に用いられる相談援助技術・技法に焦点化し、演習を行った。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。ただそれが技術のみの習得にとどまらないように、

その基盤にある福祉的理念を十分に説明する機会を設けるようにした。できる限りグループワークを取り入れ、他者と意見を共有しながら、考察を深めていく機会を設けるようにした。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【 相談援助演習Ⅳ 】 本演習は相談援助実習と連動して開講される演習であるため、より実践場面を意識し、臨床現場で用いられる相談援助技術・技法に焦点化し、演習を行った。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【 相談援助演習Ⅴ 】 本演習は相談援助技術を学ぶ最後の演習であり、学生の学びとしては馴染みの薄い、地域の組織化や福祉のまちづくりの視点を習得する演習である。まず学生が地域とは何かを理解できるよう、「まち歩き」などのプログラムを取り入れ、地域福祉の視点をもって地域を理解できるような機会を設けた。そして個別支援というミクロレベルのソーシャルワークから、地域というメゾレベルのソーシャルワークへと展開できるような視点が習得できる事例を教材として用いるようにした。その中で、また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【 相談援助実習指導Ⅰ 】 実習前指導を行う本科目では、実習への動機づけや、福祉実践に臨む視点形成に焦点を置いた講義を展開した。講義にできるだけワークを取り入れ、学生が自身で考える機会を増やすように工夫した。また車いすの使用法や、実習施設で用いられている療法や支援方法を実践する機会を講義内で設けた。昨年に引き続き、本年度も見学実習を実施することができなかったため、利用者の障害特性や支援方法等を自己学習する機会を増やし、グループワークを通して利用者の生活課題やニーズについて理解を深められるようにした。
授業科目名【 相談援助実習指導Ⅱ 】 実習体験から自ら気づき、考察できる力を育成することを目標に実習指導を行った。事前学習では実習に臨む視点形成、考察するための基礎力をつけることに焦点化した。特に実習日誌作成の方法については演習を繰り返し、指導時間を集中的に設けた。また後期実習前には、個別支援計画書の作成について集中的に指導時間を設けた。事後学習では、それぞれの実習施設ごとにプレゼンテーションの機会を設け、さらにそれをグループで共有することを通して、学生同士の対話から実習体験を意味づけ、理解を深められるような機会を設けるようにした。 昨年に引き続き、今年度もコロナ感染症流行下での実習であったため、学生や各実習施設への説明を十分に行い、感染症予防を徹底して安全に実習が行われるよう調整を行った。
授業科目名【 保健福祉学入門 】 本科目は保健福祉学部の人7人の教員によるオムニバス形式の講義である。その中で「社会福祉学の研究」について1コマを担当した。対象が初年次生であり、他学科の学生も含まれるため、社会福祉とは何かという基本的な説明を行い、社会福祉分野での研究について、自身の大学での学びを実例としてあげ、大学で研究に取り組むことの意義をわかりやすく伝えられるように努めた。
授業科目名【 福祉入門 】 本科目は4人の教員と各領域の実践者によるオムニバス形式の講義である。その中で「社会福祉の担い手」、「地域福祉」の2コマを担当した。初年次生に対して、福祉への興味関心を醸成することを目的とした科目であるため、福祉が必要とされている現状や、福祉に携わることのやりがいなどを中心に、できるだけ視覚教材などを用いて、わかりやすく伝えられるようにした。
授業科目名【 福祉経営論 】 本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習できるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また国家試験の受験年度でもあるため、これまで学んだ基礎的な知識を復習する機会も設けた。 本科目は福祉経営という学生には馴染みづらいマクロな視点を必要とする科目であるため、新聞記事等を用いて時事的な問題を扱ったり、学生と年齢に近い若手の実践を取り上げたりなどして、学生が身近にとらえられるような話題を提供するようにした。

授業科目名【 就労支援サービス論 】 本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習できるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また実践現場で障害者の就労支援や困窮者支援を展開している実践者の講話を取り入れたり、視覚教材を用いたりしながら、就労支援のサービス内容を具体的に理解できる機会を設けた。
授業科目名【 障害者福祉論 】 本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。 本科目は、2年生を対象としており、社会福祉の基礎となる科目のひとつでもあるため、出生前診断に象徴される優生思想や、「親亡き後」問題に象徴される社会的排除や孤立の問題といった具体的な事象を取り上げながら、障害者福祉の理念や基本的な視点を伝えられるよう努めた。また障害者の実像についてできるだけ具体的にイメージできるよう、動画等の視覚教材を用いるようにした。
授業科目名【 専門研究Ⅰ 】 前期は学生の関心のある文献を取り上げ、その読み方を中心に、論文作成の方法についての学習を進めた。後期は学生の関心のあるテーマにしたがって、論文作成に向けた指導をした。
授業科目名【 専門研究Ⅱ 】 学生が設定したテーマに沿って、レポート作成の方法を指導した。また国家試験の受験勉強のサポートを行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会 日本発達障害学会 障害学会		2004年～現在に至る 2005年～現在に至る 2009年～現在に至る

2021年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 発達障害者家族の「親亡き後」に関する先行研究	単	2022年3月	西南女学院大学紀要 Vol.26	①本稿では、障害者家族の「親亡き後」に関わる先行研究のレビューを行い、発達障害者家族の「親亡き後」の支援体制について検討していくための視点や枠組みを提示した。 ②pp.33-45
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
発達障害者家族の「親亡き後」の支援体制の構築に関する研究	日本学術振興会	1,820,000	

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
特定非営利活動法人 nest 北九州市障害支援区分認定審査会 北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会 社会福祉法人喜久茂会評議員選任・解任委員 北九州市障害者自立支援協議会地域生活支援拠点フェイスシートワーキンググループ	理事 委員 委員 委員 構成員	2008年6月～現在に至る 2013年4月～現在に至る 2020年4月～現在に至る 2021年6月～現在に至る 2021年8月～2022年3月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
【教育経費予算委員】 2020年度より本委員を務めている。学科の教員に対して学科全体の予算をわかりやすく説明できるよう資料等を工夫した。また予算の組み換え等の学内の調整を行った。 【倫理審査委員】 2021年度より本委員を務めている。学科の教員が提出した申請書に対する相談に応じ、研究計画等に対する検討をともに行った。また規定や申請書等の改訂作業に参加した。加えて「初年次セミナー」において1コマ、研究倫理についての講義を行った。 【保健福祉学研究所運営委員】 2017年度より本委員を務めている。研究所講演会の企画、報告会の運営の補助等を行った。 【社会福祉士国家試験対策委員】 国家試験対策の年間を通じた企画、日程調整や担当教員、業者への依頼等の調整を行った。学生の受験勉強の状況等を適宜学科内で共有し、各教員が受験勉強をサポートできる体制をつくることのできるよう努めた。学生に対しては、オリエンテーションや個別面接を通じて、国家試験に向かう心構えについて丁寧に説明し、1年間モチベーションを継続して保っていくことができるよう動機づけを行った。 【出前講義】 高校生が福祉の視点に触れ、福祉の仕事の楽しさを感じられることを目標に、福祉の仕事が求められている状況、社会福祉士がどのような仕事かについてわかりやすく伝えられるよう工夫した。また演習などを取り入れることで、大学での授業を体感できるようにした。